

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

## 営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 謙

### 野菜の出来を左右する冬の畑管理を伝授

皆さんは畑に残された野菜をどうしていますか。片付け方次第で、畑の状態が変わります。

**畑も冬の管理がとて大切**です。土の乾燥や凍結が起こりやすい冬には、畑に何も植えていないからといって、そのままにしていると土がダメージを受けてしまうことがあります。寒さが本格的になる前に準備することで、春に大きな違いが表れます。  
**今回は、管理のポイントを大きく3つ紹介します。**

#### 畑の掃除

収穫が終わった畑では、果菜類の茎やダイコンの葉、腐敗した野菜くずがたくさん出ます。

そのまま畑に放置すると、春に病害虫が発生する原因になってしまいます。さらに、鳥獣害を引き起こす原因にもなります。

野菜くずは畑からきれいに取り除きましょう。

#### 土起こし

畑を深く耕しましょう。土の塊は砕かず、そのままにしてください。この塊は冬の寒さにより、中

の水分が凍ったり溶けたりを繰り返すことで、徐々に細かく崩れていきます。このとき、寒さに弱い病害虫が死んで、土の性質が良くなります。

野菜の多くは弱酸性から中性の土壌が適しているため、苦土石灰を1アール当たり15〜20キロ散布して耕すと、土壌の酸度が調整され、病害を予防する効果があります。また、野菜づくりに重要な要素成分を補給することにもつながります。

#### 堆肥の散布

よく熟した堆肥を、種まきや植え付けの1カ月前に、1アール当たり200〜300キロ入れておくことで土になじみやすくなり、土の生態系も落ち着きます。

なお、土が硬いと作物は根を張ることができず、栄養や水分を吸収できなくなり、育ちにくくなります。

#### 営農のポイント!

冬の間は野菜や雑草の成長も遅くなりますが、見えない土の中で微生物は活動しています。春に向けて畑の片付けと準備をしていきましょう。

#### 問い合わせ

農業振興課農業振興係  
0824・73・1131

## 庄原が好き

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。



ひばごんファームで夏秋いちご「すずあかね」を栽培している田盛和音さん(左)と夫の将也さん

結婚を機に、広島市から西城町へ移住し、夏秋いちごの栽培・販売、ハンドメイドのアクセサリーの制作・販売をしている、田盛和音さんに話を聞きました。

#### 仕事と自然

広島市に住んでいたときは、小さな季節の変化を感じる事もなく、毎日遅くまで忙しく働いていました。

庄原に来てからは、いちご農家という仕事柄もありますが、自然にたくさん触れることができ、時期によって出会う昆虫や動物の違いなど、小さな変化を感じることができるようになりました。とても面白いです。

仕事も繁忙期以外は定時で終わるようになり、プライベートの時間が増えたので、趣味を充実させることができました。

#### あたたかいまち

庄原市では、人とのつながりがたくさんあり、外に出掛けると必ず誰かに会って、声を掛けてもらったり、お話をしたりするので、とても温かい町だなと感じています。

ある日、ヤギが飼われているのを見掛け、驚きました。帰宅後、家族に「ヤギや馬を飼うのが夢だった!」と話しました。家族は、ヤギを譲ってくれた人を紹介してくれ、あつという間に2頭のヤギを迎え入れることができました。家族の優しさや、人と人とのつながり、地域の懐の広さに感動しました。

今後は、ひばごんファームのいちごを使った食べ物や飲み物を、車で移動販売することが夢です。もしその夢が実現できたら、ぜひ食べに、飲みに来てください!



SNSの投稿募集中  
「#庄原が好き」  
で投稿!



投稿を  
チェック

#### 問い合わせ

自治定住課定住推進係  
0824・73・1257